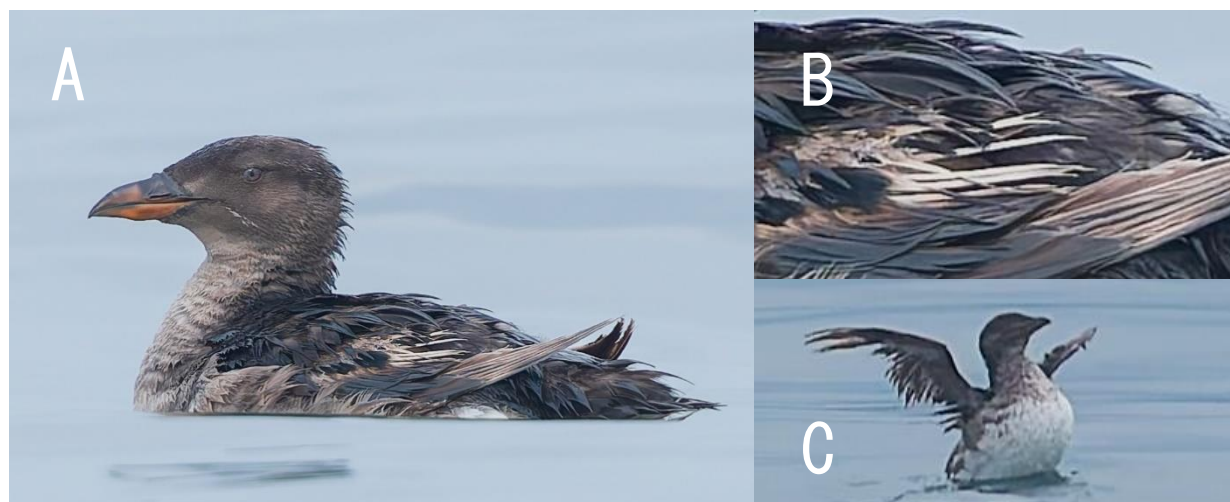


愛媛県今治市津島沖におけるウトウの観察記録

西尾喜量¹¹ 日本野鳥の会愛媛写真1 *Cerorhinca monocerata* ウトウ A: 左側面, B: 左翼次列風切, C: 正面と右翼.

種の記録

Alcidae ウミスズメ科

Cerorhinca monocerata (Pallas, 1811)

ウトウ (写真 1)

確認記録 観察年月日: 2025 年 8 月 8 日 午前 9 時頃. 観察地点: 愛媛県今治市吉海町津島付近の海上 (34.153682N, 132.985435E). 1 個体. 観察者: 西尾喜量. 観察方法: 船上から双眼鏡を用いて目視確認し, 望遠レンズ (焦点距離 600mm) 装着の一眼カメラにて撮影.

種の特徴

本個体は同日に観察されたカンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* よりも大きく見えた. 嘴は太く黒褐色の混じる橙色で, 嘴基部に小さな突起が認められた (写真 1A). 頭部および背面, 翼上面は一様に黒褐色で, 喉, 胸, 脇は淡褐色 (写真 1A), 腹部, 下尾筒は汚白色であった (写真 1A-C). 眼の上部やや後方と嘴基部から下にわずかに白い飾り羽が認められた (写真 1A). 以上の特徴から観察個体を本種と同定した (出口, 2006; 真木ほか, 2014). 本個体は嘴基部の突起が非常に小さく, 虹彩が暗橙色のため, 若齢の個体と考えられた. また, 次列風切には羽鞘が残っている羽毛が認められたため, 換羽中と考えられた (写真 1B). ウトウの換羽時期は 6 月から 9 月とされており (中嶋ほか, 2024), 本個体は少なくとも生後 1 年以上経過した若鳥と考えられた.

備考

本種は北太平洋の沿岸域に広く分布する. 日本で

は, 北海道や東北地方の島嶼や沿岸部で繁殖し, 冬季は主に本州沿岸で見られる (出口, 2006; 真木ほか, 2014; 箕輪・小田谷, 2024). 瀬戸内海での記録は散発的で少なく, 愛媛県内では 1995 年 9 月に今治市旧関前村大下島で本種とみられる記録があるが, 根拠となる写真が得られておらず, 参考記録となっている (日本野鳥の会愛媛, 2024). 本報告は記録写真に基づく愛媛県初記録である.

引用文献

- 出口智広. 2006. ウトウ. Bird Research News. バードリサーチ, 東京. (3): 12.
- 中嶋千夏・塚越優喜・大門純平・西沢文吾・向峯 遼・庄子晶子. 2024. 画像データを用いたウトウ *Cerorhinca monocerata* とエトピリカ *Fratercula cirrhata* の風切羽換羽時期の推定. 日本鳥学会誌, 73(1): 45–55.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 日本の野鳥 650. 平凡社, 東京. 788pp.
- 箕輪義隆・小田谷嘉弥. 2024. 新海鳥ハンドブック. 文一総合出版, 東京. 104pp.
- 日本野鳥の会愛媛. 2024. 愛媛県鳥類目録. 文彩堂出版, 東京. 132pp.

(2025 年 8 月 25 日受付, 2025 年 8 月 28 日公開)

連絡先: 西尾喜量 (e-mail: pmdgd959@gmail.com)

(Yoshitomo Nishio. 2025. An apparent record of *Cerorhinca monocerata* (Alcidae) from Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 25017)